

石山・芸術の森地域 **芸術の森部会 ニュース**

これまで2つの連合会、4つの小学校を一体とした「石山・芸術の森地区検討委員会」として検討してきましたが、より議論を深めるために「部会制」を導入し、石山部会と芸術の森部会に分かれて検討しています。この検討委員会ニュースについても、各部会ごとに発行しています。

～ このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています ～

**第4回芸術の森部会
について**

2月9日（火）午後6時から、芸術の森地区会館（芸術の森地区まちづくりセンター）で第4回芸術の森部会を開催し、地域の方から寄せられた個別意見や予算要求についての報告のほか、新設校への通学や教育委員会へ提出する意見書案について検討を行いました。

**地域の皆さんから
寄せられた意見
(報告)**

前回（第3回）の部会以降、地域の皆さんから寄せられた意見について、事務局から2件の報告がありました。

- 統合に伴う地域衰退を避けるために、跡地活用についても検討してほしい。
- 若い家族が増え、老若男女が関わりあえる場としての活用を検討してほしい。例えば、老健施設や保育園を作り、待機児童解消や働きたい女性の雇用の場づくりのようなことを考えてはどうか。

(平成28年1月 FAX)

(事務局回答)

今後、跡地活用を検討する際には、いただいたご意見も参考にさせていただきたいと考えています。

- ニュースを読んだが話の流れが分かりづらい。
- 小中一貫校は理解できるが、校舎分離型では中一ギャップの解消等にはつながらず、意味がないのではないか。
- 児童数減少で焦る気持ちはわかるが、子どもの立場に立って考えられていないのではないか。大人目線ではなく、子どもたちのために何が良いかを考えてほしい。

(平成28年2月 メール)

(事務局回答)

ニュースについては、わかりやすい紙面作りに努めます。小中一貫校については、敷地面積の都合から校舎併設型とした場合、同一敷地内にグラウンドの整備が難しく、常盤中学校の敷地をグラウンドとして活用することを考えると、車道を渡る必要があります。部会では、あくまで子どもの安全や利便性等を考え、校舎分離型を目指すこととしたものです。

予算の検討状況 について（報告）

事務局より、統合校の新設に伴う予算の検討状況について、報告がありました。

- 新設に向けた予算の要求作業について関係部局と調整を行ってきたが、ときわスポーツコミュニティ広場が変則的な土地のため、来年度は土地形状の状況調査を行い、施設配置等の検討を行う予定となった。
- 正式には、平成28年第1回定例市議会（2月17日～3月29日）の予算審議の結果を踏まえてとなるが、予算案が承認されれば、来年度は土地等に関する調査を行う予定。

新設校への通学 について

新設校への通学に関して、これまで部会で出された意見等をもとに、想定される課題を整理したものについて、事務局から説明がありました。

< 想定される課題 >

- 路線バスの便数不足への対応（特に石山東地区からの登校時）
- 路線バス利用を考慮した下校時刻やバスダイヤの調整
- 市立大学の学生との下校時刻の重複
- 石山地区新設校への指定変更の検討
- 通学危険箇所の特定 など

教育委員会への 意見書案について

これまでの約2年間の検討を取りまとめた意見書を作成し、教育委員会へ提出する旨の提案がありました。

< 意見書案の概要 >

- 常盤小学校と石山東小学校を再編し「ときわスポーツコミュニティ広場」に新たな学校を設置すること（※ 校名については、検討のうえ、別途意見書を提出）
- 通学距離が延びる児童や、新たにバス通学となる児童がいることから、通学安全の取組を充実するとともに、バス事業者とも協議を行い、児童が安全に通学できるようにすること
- 新設校については、隣接する「常盤中学校との小中一貫校化」について検討すること
また、「小中一貫校のモデル研究校」についても検討すること
- 交流事業等を実施し、安心して開校を迎えられるよう配慮すること
- 新たな学校施設については、芸術の森地区の特色に配慮した施設とすること
- 新設校では、現在の両小学校の特色ある教育内容や歴史等に配慮し、未来志向の「新しい学校づくり」を進めること
- 既存の小学校の跡活用については、地域の活性化に資する活用方法を検討すること

委員から寄せられた 意見など

◆予算の検討状況 について

第4回芸術の森部会では、委員から以下のようなご質問、ご意見がありました。

- 校舎の新築については相当厳しいと聞いていたので、市役所内部での調整の結果、土地等の調査だけでも予算が付く予定ということであれば、前進したのではないかと受け止めている。
- 来年度は、ときわスポーツコミュニティ広場の土地等の調査をするとのことだが、それに伴って新設校の開校時期はどうか。

(事務局回答)

土地等の調査結果を踏まえてとなりますが、最短で進んだ場合には、29～30年度に設計、31～32年度に工事を行うことになり、開校時期は最短で平成33年4月となります。

◆新設校への通学 について

- バス時間の変更や増便については、地元の方も利用しているため難しい面もあると思う。ただ、子どもたちの通学に関することであり、バス会社としっかり協議してほしい。
- 以前、バス会社に時刻変更を依頼したことがあるが、しっかり相談に乗ってもらえる印象だった。ダイヤ改正等のタイミングにあわせて相談すれば、対応してもらえる余地はあると思う。
- バス会社で市立大学の学生専用のスクール便を運行していたように思う。小・中学生についても、そのようなスクール便が運行できれば一番いいと思う。
- 通学路に関しては、現在、各学校で作っている通学路の安全マップ等なども見ながら危険箇所を確認していくべきである。
- 常盤橋付近は、夜になると暗くなるほか、緩やかなカーブとなっており危険である。また、橋の欄干の柵の間隔が大きいなど、滑って落ちないかなと不安に思うことがある。
- お金は掛かるが、危ない場所については、歩道の拡幅やガードレールの設置といった対策も必要だと思う。
- 国道の「追い越し禁止」規制がいつの間になくなり、スピードを出す車が増えたように思う。以前のように、追い越し禁止にすべきと感じており、通学路になるならなおさらそう感じる。
- 国道は交通量は多いが、学校が始まるとしっかり除排雪もされている。まっすぐな道路で、比較的に見守りしやすいという面もある。
- 今回の常盤橋の件等は、地域の子どもの安全に関することでもあり、時間はかかるかもしれないが、連合会として北海道開発局ともしっかり交渉していきたいと思っている。
- 常盤地区の国道沿いに石垣の塀があるが、雪庇等があり危険である。国道はダンプ等も走るため、新設校の通学路については、可能な限り国道を外すべきだと思う。
- 国道ではなく常盤公園の方を歩く子どもも多いと思うので、通学路を検討する際はそういった点も考慮すべき。

◆教育委員会への 意見書案について

- これまでの部会の検討をまとめた内容であり、問題ないのではないか。
- 意見書の内容について異論はないが、一点、気になる部分として、現在、ときわスポーツコミュニティ広場を利用している人たちから意見等は出ていないのか。

(事務局回答)

体育振興会の方にご相談しましたが、特段、反対のご意見等はお聞きしていません。

- 少年団の関係者と話す機会があったが、特に反対されているという雰囲気ではなかったと思う。ただし、代換地をどうするかといったことは心配されていた。
- 小中一貫校の部分についてだが、仮に「モデル校」になるとしたら新しい校舎の完成後となるのか。

(事務局回答)

札幌市では、来年度から小中一貫教育に関する検討を始める予定ですが、新設校が開校する前にモデル研究校化できれば、新設校を円滑に小中一貫校として開校しやすいのではないかと考えています。

- これまでの検討である程度方向性がまとまってきたので、ここで芸術の森地区としての考え方をしっかりと教育委員会に示しておくことで、また次のステップに進めるのではないかと考えています。

決定事項

このような検討から、第4回芸術の森部会では以下の方針を確認しました。

今回の意見書案を基本とし、これまでの2年間に渡る検討内容を教育委員会に提出する。なお、意見書の詳細の表現や提出時期等は、部会長に一任する。

第5回の芸術の森 部会について

第5回の芸術の森部会は、新年度の役員改選等の状況を考慮し、6月頃の開催を予定しています。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい ■

石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837

E - mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>